

# 日々の祈り

2020年7月6日(月)～11日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

7月から、時間を短縮して感染予防を徹底しつつ木曜日の祈禱会を再開します。「日々の祈り」から御言葉を聞き、皆で祈ります。「日々の祈り」は継続しますので、祈禱会がない日も、また祈禱会に来られない方も、共に御言葉に耳を傾け、共に祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・病や、弱さや、苦しみを覚えている兄弟姉妹のために。
- ・新型コロナウイルスによって、困難の中にある人々、戦っている人々のために。また、この状況の中で主に仕えているすべての教会の牧会と伝道のために。
- ・世界の為政者が、神さまの御心に従って国を導くことができるように。

6日(月)

ルカによる福音書9章9節

しかし、ヘロデは言った。「ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は。」そして、イエスに会ってみたいと思った。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまという方は何者なのか。どんなお方なのか。これは、信仰者の生涯かけての問いであり、またわたしたちは「この方を何者と言うのか」と生涯問われ続けます。そしてわたしたちは、この方に従う中で、その御言葉を聞き、その御業を目撃し、その救いに与り、この方が神の御子であること、「わたしの救い主」であることを知らされていきます。

7日(火)

詩編86編11節

主よ、あなたの道をお教えてください。わたしはあなたのまことの中を歩みます。御名を恐れ敬うことができるように／一筋の心をわたしにお与えください。

主の道を教えていただきましょう。主の道を歩むことによってこそ、主と共に生きることによってこそ、その恵み深さ、憐れみの大きさ、御業の偉大さを知ることが出来ます。わたしたちの心を主に向かうものとされます。主が道を備え、教え、共に歩いて下さいます。そうしてわたしたちが御名を恐れ敬う者となりますように。

8日(水)

エフェソの信徒への手紙 2章 8節

事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

わたしたちは、ただ恵みによって、主イエス・キリストを信じる信仰によって、救われました。わたしたちの努力や、功績や、決意によるものではありません。これらは、わたしたちの力によるのではなく、神の賜物として与えられたものです。すべては神さまが与えて下さったものなのです。

9日(木)

エレミヤ書 23章 4節

彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない」と主は言われる。

神さまは、ご自分の民に約束をなさいました。彼らを牧する牧者を立てると。そのゆえに、群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることありません。群れを養い、守り、導いて下さる方を、神さまは遣わして下さるのです。その方こそ、神の御子であるイエスさまです。わたしたちもまた新しい神の民として、この牧者のもとに集められた群れであり、この牧者の守りの内に置かれているのです。

10日(金)

詩編 23編 1節

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

次の主日礼拝の御言葉です。羊は、自分の力で生き延びることが出来ず、食べ物さえ手に入れられません。この羊を、羊飼いは導き、養い、守ります。羊飼いがいなくては、羊はまったく生きられません。わたしたちもまた、主がおられなければ、生きることは出来ないのです。しかし、主が羊飼いでいて下さるならば、一切のものは満たされ、わたしには何も欠けることはありません。

11日(土)

ルカによる福音書 9章 16~17節

すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、弟子たちが差し出したわずかなものを受け取り、祝福し、五千人もの人々を養うことがお出来になります。イエスさまの御手に委ね、従うならば、イエスさまは五千人の一人一人を満腹させ、なお豊かに有り余るほどの恵みを与えて下さるのです。この方はどなたでしょうか。この方は、わたしたちの主であり、命をかけて守って下さる羊飼いです。